令和元年１０月２６日

取手市議会議長
入　江　洋　一　殿

建設経済常任委員会
委員長　岩　澤　　信

所管事務調査（視察研修）報告書

１　視察研修年月日
令和元年９月２６日 ～ 令和元年９月２７日

２　視察研修場所及び視察事項

・　大阪府岸和田市（岸和田丘陵地区のまちづくり事業について）

・　滋賀県守山市（守山まるごと活性化・ビワイチを推進する事業について）

３　視察研修出席者
建設経済常任委員会委員　６名
・委 員 長　　岩澤　　信
・副委員長　　落合信太郎
・委　　員　　吉田　　宏
・委　　員　　佐藤　隆治
・委　　員　　染谷　和博
・委　　員　　飯島　悠介

４　視察研修報告

９月 26 日（木）大阪府岸和田市の岸和田丘陵地区のまちづくり事業について行政視察を行いました。

（岸和田市の概要）
岸和田市は大阪府泉南地域に位置し、岸多田藩の城下町を中心に発展してきました。総人口は 190,060 人（令和元年９月１日現在）で、大阪府の出先機関や企業の支店などが集中しており、また岸和田だんじり祭は全国的に有名です。
（丘陵地区整備事業の経過）
昭和 60 年度に丘陵地区整備事業として「コスモポリス地域先端技術産業立地推進協議会」が設立、翌年度には「コスモポリス地域整備推進室」「岸和田コスモポリス地域開発推進機構」、昭和 63 年度に「株式会社岸和田コスモポリス」が設立されました。しかし、平成 16 年度に民事調停の成立があり「株式会社岸和田コスモポリス」が解散、翌平成 17 年度、市と地権者で新たな地域整備計画の協議、検討に着手されました。平成 19 年度には丘陵地区地域整備計画検討委員会より、都市・農・自然の３エリアに区分された「岸和田市丘陵地区整備計画基本構想」が提案され、平成 22 年度に岸和田市丘陵地区整備機構協議会より「岸和田市丘陵地区まちづくり基本計画」が岸和田市へ提案されました。平成 26 年度、都市整備エリアにおける「岸和田市丘陵土地区画整理組合」が設立（事業認可）、平成 27 年度に地区全体のまちの愛称を「ゆめみヶ丘岸和田」に決定されました。

（岸和田市丘陵地区まちづくり基本計画について）
３つの基本コンセプトとして「人々が元気で快適に生きがいを持って暮らせるまち」「活力があり地域を輝かせる産業があるまち」「地球と人にやさしい自然環境があるまち」の実現により、持続可能なまちを創ることを目標としています。丘陵地区でのまちづくりが進むことで、周辺地域だけてなく、市内や広域の交流が進み、新たな活力を生み出す拠点になると考えられています。

（岸和田 Green Village 構想について）
岸和田 Green Village 構想とは、新たな時代を先導し、全国に誇れるまちづくりにむけて、「暮らし」「学び」「働き」「楽しむ」など、生活の全てのステージにキラリと光る新たな仕組みをコンセプトとし、丘陵地区の特徴である「農」「自然」を活かし、あふれる魅力とみなぎる活力を創造しています。
３つのキーワードとして、「徹底した環境との調和、自然資源の活用、生態系の確保」「地域や企業、子どもから高齢者まで多様なプレーヤーの活躍」「農と自

然を活かした新たなビジネスモデルの創出」を掲げています。
さらに７つのプロジェクトとして

- スローライフ実現プロジェクト
- フードバレー形成プロジェクト
- 「フクロウの森」再生プロジェクト
- 高齢者かがやきプロジェクト
- 次世代のびのびプロジェクト
- 竹資源活用プロジェクト
- 神於山からの息吹プロジェクト

を展開しています。

（道の駅 JA いずみの愛彩ランドについて）
　地産地消の拠点「食」と「農」のシンボルでもあり、農を通して地域の人々がふれあい、心の安らぎを感じられる地としての「道の駅 JA いずみの愛彩ランド」の視察を行いました。年間来場者が 100 万人を超え、平日でありながらも多くの来場者か見受けられました。

　まとめとして、丘陵地区の再構築から始まった整備事業は、当時のご苦労された職員の方々の熱意を引き継ぎ、住民の方々と長い時間をかけて様々な会議を経て、今日の「岸和田 Green Village 構想」に辿りついた経緯を丁寧かつ熱い想いを伺うことができました。「まちづくり」として長い年月をかけ、一歩ずつ進めていく必要性を学ばせていただきました。

９月 27 日（金）滋賀県守山市の守山まるごと活性化・ビワイチを推進する事業について行政視察を行いました。

（守山市の概要）

守山市は、琵琶湖の南東部を形成する湖南平野の中央部に位置し、大津湖南広域市町村５市のなかで、大津市・草津市とならんで中心的都市になります。市域は東西 8.4ｋｍ南北 12.2ｋｍ総面積は 55.74ｋ㎡であり、標高は最高地 106.1m、最低地 83.7mで、南北から北西に向けてゆるやか傾斜をもつ平坦な田園都市で、人口は 83,475 人（令和元年６月 30 日現在）となります。

（守山まるごと活性化プラン）

守山まるごと活性化プランは、地域にある歴史、自然、生活などの様々な資源を活かした地域づくりを、地域が主体となって進めるための指針として平成 25 年度に策定され、次のような性格を持ちます。

●自治会や地域の人々などが主体的に地域のまちづくりをすすめていく上で、共有し活用する基本的指針となるもの。

●地域が主体となり行政と連携してプランを策定するとともに、その実現についても地域と行政が連携して行うもの。

●プランに示された取り組みは、市の各計画等との整合も図りながら、順次事業化していくもの。

この計画は「学区別まるごと活性化プラン」として各学区の活性化の基本的な考え方と具体策を示したもので、守山・吉身・小津・玉津・河西・速野・中州の７つの学区で構成されています。さらに学区ごとの「学区別会議」と「全体会議」からなる「守山市まるごと活性化プラン検討委員会」を立ち上げ、学区別会議での意見交換を中心に、全体会議での調整を加えてプランを策定しています。

各学区の５年間の主な取り組みとして、

● 守山地区…自治会魅力向上プロジェクト・守山の歴史・伝統文化再発見プロジェクト・ＪＲ東側活性化プロジェクト・水とホタルから輝くプロジェクト

● 吉身地区…ホタルを守ろうプロジェクト・歴史伝統中山道プロジェクト・祭りだ！わっしょいプロジェクト

● 小津地区…新守山川触れ合い環境整備プロジェクト・水に育まれた小津の文化発見プロジェクト

● 玉津地区…諏訪家屋敷をはじめとする玉津の歴史伝統文化活性化プロジェクト・赤野井湾再生プロジェクト・食の地産地消推進プロジェクト・玉津ホタル祭り・イベント推進プロジェクト・定住促進プロジェクト

● 河西地区…野洲川、法竜川、里川の「水辺空間」満喫プロジェクト・近江妙

蓮活用プロジェクト・河西の「身近な魅力」情報発信プロジェクト・河西のみんなで「つながる」プロジェクト・健やか、安心、快適な生活環境創出プロジェクト

- 速野地区…守山の北の玄関おもてなしプロジェクト・速野まるごと博物館プロジェクト・びわこ地球市民の森いきいきプロジェクト・大川周辺の自然環境保全＆環境学習推進プロジェクト・みんなで考えよう速野の未来プロジェクト
- 中州地区…野洲川河川敷、伏流水再生プロジェクト・みんな集まれ！中州にぎわい活力創出プロジェクト・農業を元気にするプロジェクト・安心して暮らせる公共交通を考えるプロジェクト

が挙げられます。地域のみなさんが考え、アイデアを出し合ってつくりあげた各プロジェクトは、地域が主体となり市と連携して進めています。また、プロジェクトを確実また効果的に実現させるために、取り組みの進捗状況や成果をチェックし、結果を反映して見直していくという考えです。

まとめとして、守山市の自治会加入率が 95％であり、特に地域での結束力が強い印象を受けました。また交付金に関しては、学区（地区）がやりたいことに対して補助するもので、何もやらなければ出さないと伺い、各学区での特色を色濃くしたプロジェクトが展開されており、取手市においては今後人口減少していく中での自治会・地区の重要性を学ばせていただきました。

（ビワイチを推進する事業）

「環境」に優しく、「健康」「生きがい」「友情」を与えてくれる自転車新文化を拡げる為、琵琶湖を自転車で１周する「ビワイチ」の拠点とした、自転車を活用した守山市のまちづくりを伺いました。サイクリストの聖地である「しまなみ」の成功事例を徹底研究し、「ビワイチ起点のまち守山市」をキーワードに、自転車を軸としたまちづくりを開始しました。平成 28 年３月に「ジャイアントストアびわ湖守谷」がオープン、同年６月に「びわ湖守山・自転車新文化推進協議会」が設立し、平成 29 年３月に愛媛県今治市と「自転車を通じたまちづくり交流協定」が締結されました。翌４月に守山市湖岸エリアに「琵琶湖サイクリストの聖地碑」が誕生し、多くのサイクリストが訪れるようになりました。同年 10 月にはプロサイクリスト総監修の県全域を舞台とした防水のビワイチコースマップを発行、平成 29 年の滋賀県によるビワイチサイクリストの年間推定９万 5,000 人と発表されました。

自転車を軸とした観光振興の取り組みとして

- ビワイチを楽しく！お手軽に！漁船タクシー事業
- 守山市をサイクリストの聖地に！「聖地の碑」設置

- 全国初！長距離ライドも安心「ビワイチ・サポートカー」
- プロサイクリスト監修！ビワイチマップ
- ICT を活用したビワイチスタンプラリー
- 関東圏から誘客！東京からのバスツアー！
- ビワイチ・アワイチ！関西２大ルートで連携ＰＲ
- 沖縄！しまなみ！ビワイチ！ゴールデンルート！

また、今後の「戦略的連携」として、自治体間連携の強化・民間企業との連携の強化・広域連携による PR インバウンド誘致を掲げ、地域創生の目的である経済活性化につなげる新たなステージへと推進しています。

さらに、地域における自転車活用として、

- 自転車購入補助制度
- びわ湖守山・自転車新文化推進協議会設立
- 自転車で走りやすい環境づくり
- 身近な自転車活用の促進
- 地域にも広がる自転車の熱

まとめとして、守山市の取り組みとしての「自転車新文化」は琵琶湖や高低差が少ない地形・特色を活用したまちづくりを推進しており、取手市においても利根川・小貝川の周辺のサイクリング事業につながる多くの事業を展開しています。また、観光振興の一環としても大いに参考となる研修となりました。